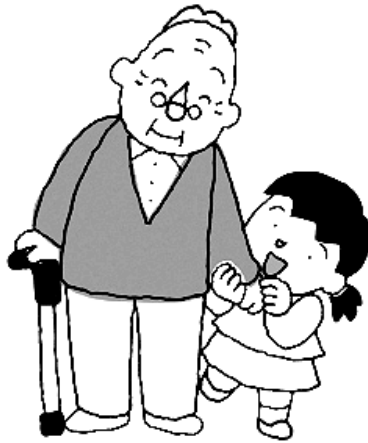

人 権 尊 重 文 集

春を呼ぼう

2018年1月

第 13 集



新 宮 市
新宮市教育委員会
新宮市人権尊重委員会

はじめに

新宮市教育委員会 教育長 楠本 秀一

人権作文集「春を呼ぼう」を市内の小・中学校の先生方のご指導とご協力により、発刊することができました。

児童生徒には、自分自身のこと、家族のこと、友達のこと、社会で起きている問題のこと等、各々が感じた大切なことに目を向け、温かい心のこもった作文を書いていただきました。

児童生徒自身の感性と、豊かな表現をもちいた作文は、素直な心があふれた作品となっており、未来へ向かう児童生徒の成長が見て取れるように感じます。

現在の社会は、メディアでの情報があふれています。特にインターネットが普及してからは、さまざまな情報を簡単に手に入れることが可能となっており、その中では、誤った情報や表現が見受けられたり、他者の尊厳を否定するようなウェブサイトも存在しています。

情報あふれる社会で暮らす私たちは、人権尊重の視点に立ち、人を思いやることのできる言葉の使い方を学び、他者を受け入れる気運を醸成していかなければなりません。安易に使った言葉により、人を傷つけてしまうことは、あってはならないことです。

本市の市民憲章は、『われら地球人 われら新宮人』です。ふるさとに誇りを持ち、豊かな未来を築くための誓いであり、未来の子どもたちのために誇りある豊かな「まち」と「ひと」を育てていきたいという願いを込めて五つの約束を決めています。

◆地球も私たちと同じ生命（いのち）あるもの すべてのいのちを尊びます

◆自然の恵みに感謝し 絶やすことなく未来の子どもたちに引継ぎます

◆お互いを認め合い ともに生きる社会をめざします

◆熊野の歴史に学び文化を愛し ころろ豊かな「ひと」を育みます

◆いつもキラリと生きる私たちでいます

世界遺産として認められた清らかな海・山・川が織りなす熊野の大地や豊かな文化で培われた「思いやりの心」「笑顔あふれる心豊かな新宮市」を次世代につないでいきたいと思っています。

おわりに、この文集発刊に当たりご尽力をいただきました市内小中学校をはじめ関係者の皆様方に対し、心から感謝を申し上げ、ご挨拶いたします。

★小学生の部★

がんばる力	三輪崎小学校一年
かぞくのみんなにありがとう	神倉小学校一年
たすけてくれて、ありがとう	王子ヶ浜小学校一年
わたしとおとうさん	熊野川小学校一年
わたしのお姉ちゃん	高田小学校二年
わたしのヒーロー	三輪崎小学校三年
友だちは宝物	神倉小学校三年
ぼくのひいおばあちゃん	高田小学校四年
かわいい妹	王子ヶ浜小学校四年
お母さんの仕事	熊野川小学校四年
私とお母さん	高田小学校五年
差別はいけない	神倉小学校五年
自分と違うのはあたり前	三輪崎小学校六年
バリアフリー	王子ヶ浜小学校六年
自分の気持ち	熊野川小学校六年

1 1 1 2 2 3 3 4 5 6 6 7 8 8 9 10

★中学生の部★

障がい者の人達と交流して	熊野川中学校二年
学ぶ環境	高田中学校二年
学歴からくる差別	光洋中学校二年
共に生きる社会をつくる	緑丘中学校二年
障がい者の人権問題	熊野川中学校二年
いじめに対する考え・対応	近畿大学附属新宮中学校二年
子供たちが平和に暮らせるために	光洋中学校二年
たった一つの命	近畿大学附属新宮中学校二年
前とは違う生活で気付いたこと	緑丘中学校二年
子供を守る	近畿大学附属新宮中学校二年
性同一性障害について	城南中学校三年
いじめに良い事なんてない	熊野川中学校三年
戦争について	城南中学校三年
たくさんさんの人の一人に	光洋中学校三年
仲間に頼って	城南中学校三年
人間の幸せとは	緑丘中学校三年

11 11 13 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

小学生の部

がんばる力

三輪崎小学校一年



ぼくが、じやりみちでこけたとき、おかあさんが、
「だいじょうぶ。」

とやさしいこえをかけてくれました。てはいたかったけど、こころがぼかぼかあったかくなりました。

ぼくが、かぜをひいてねつがでたとき、おかあさんが、とてもしんぱいそうに、

「だいじょうぶ。」

と声をかけてくれました。あたまがいたかったけど、あんしんしました。

ぼくが、びょういんでちゅうしゃをしたとき、おかあさんが、ずつとそばにいてくれたので、がんばることができました。

「がんばったね。」

おかあさんが、ほめてくれました。ちゅうしゃは、いたかったけど、とてもうれしかったです。

おかあさんは、いつも、ぼくに「がんばる力」をくれています。いつもありがとうございます。おかあさん。ぼくは、これからも一しうけんめいがんばるよ。

かぞくのみんなにありがとう

神倉小学校一年



おかあさんへ

ぼくが、まだおかあさんのおなかの中にいるとき、ぼくがびょうきになっていることがわかったね。しんでしまうかもしれないって、おいしやさんにいわれて、おかあさんは、すぐくすぐくしんぱいしたけど、ぼくをうんでくれたね。

うまれたとき、ぼくのくびのところは、大きくふくらんでいただね。びょうきのなまえは、『けいぶリンパかんしゅ』でした。ぼくは、あかちゃんるときから、なんかいもびょういんにいつて、ちゅうしゃをしました。たかいねつでもでした。

五さいのとき、大きなしゅじゅつをしました。ぼくは、いたいのをがまんしました。しゅじゅつは、せいこうしました。うれしかったです。

おかあさん、いつもぼくのそばでおってくれてありがとうね。

おとうと、こうきへ

いつも、まい日、ほいくえんにいつてくれて、ありがとうね。

おとうさんへ

いつも、おしごとについてくれて、ありがとうね。

ばあちゃんへ

いつも、おしごとについて、がんばってくれて、ありがとうね。じいちゃんへ

いつも、おしごとについてくれて、おわったら、いつもどこかでなにかをかってくれて、ありがとうね。

ぼくは、げんきな一ねんせいになりました。

べんきようを、がんばっています。

たすけてくれて、ありがとう

王子ヶ浜小学校一年



ぼくは、こんなうれしかったことがあります。

それは、ぼくが、一ばんなかよしのようへいくんと、タイヤのところであそんでいたときのことです。ぼくが、タイヤをふみはずして、けがをしました。すると、ようへいくんがたすけてくれました。

「だいじようぶ。」

このことばをきいて、うれしかったです。さいしよはけがをしていなかったけど、ようへいくんがたすけてくれたから、だいじようぶになりました。

それから、ようへいくんも、すべてタイヤからおちてしまいました。こんどは、ぼくが、ようへいくんに、

「だいじようぶ。」

といいました。そして、とてもいたそうだったので、いっしよにほけんしつにいきました。

ようへいくんが、

「ありがとう。」

といってくれました。ぼくは、うれしかったです。ようへいくんが、だいじようぶだったので、もっとうれしくなりました。

そのあとも、二人がけがをしたときは、二人でたすけあいました。

わたしとおとうさん

熊野川小学校一年



とうきようへいったとき、一日目ホテルにとまって、ばんごはんをたべました。あしたになるのを、わくわくうきうきしていました。なぜかというと、あした、おとうさんにあえるからです。おとうさんにあつたとき、ホットプレートでパンをやきました。

それから、スカイツリーにいきました。たのしかったです。よるごはんをたべるときになって、よるごはんがなかったので、たべにいきました。よるごはんは、おみそしとおすしでした。おとうさんが、だいぶまえのはがきを、だいじにしてくれていたのです。すごうれしかったです。

つぎの日に、デイズニーシーへいきました。おとうさんといっしよに、ミッキーとミニーを見ました。ミッキーとミニーに、川で水をかけられて、びちよびちよになりました。デイズニーシーとミニーにっている、ピーチとストロベリーをあわせたアイスをとべました。

そして、カウボーイのくちが大きいトンネルがありました。すごいぎようれつで、一じかんならびました。その中に入って、カウボーイのてきをじゅうでたおしました。ひるごはんは、ピザをとべました。

いえへかえるとき、でんしゃにのりました。でんしゃも、ミッキーとミニーのでんしゃでした。おかいものへいきました。おかしとジュースをかってもらいました。さいごにいっぱいかってもらいました。わたしのかってほしいものも、かってもらいました。ミニーのカチューシャもかってもらいました。かえるでんしゃで、

おかしをたべました。

なまえのしらない、ミツキーとミニーのともだちとしゃしんをとりました。ちよつとこわかったけど、とりました。ふんすいもありました。きれいでした。おとうさんとおわかれするとき、はんなきになりました。

また、あんな日にならないかなあと、いつもおもっています。おとうさんとまたあえないかなあと、いつもいっています。おとうさんにあいたいなあと、いつもいつもいっています。いつもいつも、こころのなかでおもっています。

「また、あいたいなあ。」

とおかあさんにいつてみました。そしたら、おかあさんは、こういいました。

「また、こんどいこうね。また、こんどね。」

わたしは、

「なんかいねたら。」

といいました。おかあさんは、こういいました。

「いっばいねたら。」

わたしのお姉ちゃん

高田小学校二年



わたしのお姉ちゃんは、おべんきょうを見てください。わたしがいない時、弟のかわりに「ごめんね。」と言って、はげましてくれま。お姉ちゃんは、はじめは、「いっしょにねてあげない。」と言うけど、おわりは、いっしょにねてください。い

ろんなことばもいっばい教えてくれます。

お母さんがかぜをひいた時は、お姉ちゃんが、ごはんを作ってくれます。お姉ちゃんががぜになった時、わたしは、とてもさみしいです。お姉ちゃんのかぜがなおった時、わたしは、とてもうれしかったです。

わたしが絵をかいていると、お姉ちゃんが、絵のまわりにバラをかいてくれます。わたしのたん生日に、羽の形のキーホルダーを作ってくれます。

わたしは、お姉ちゃんが大好きです。わけは、お姉ちゃんとあそぶと、せかい一たのしいからです。

お姉ちゃんに、いつもありがとう。

わたしのヒーロー

三輪崎小学校三年



わたしには、やさしい二人のおにいちゃんがいます。

六年生のりょう太にいちちゃんと四年生のけいとにいちやんです。

二人は、ゲームをするときも、わたしを先にさせてくれたり、ものをゆずってくれたりします。

ほうかごは、いつも野きゆうに入れてくれて、いっしょにあそんでいます。とてもたのしいです。

このあいだは、りょう太にいちちゃんが、朝ごはんはんにパンケーキをやいてくれました。でも中まで火がとおっていないくてまだつめたかったです。だけど家ぞくみんな

「おいしいね。」

と言って食べました。それは、りよう太にいちちゃんのあいじょうがこもったパンケーキだったからです。

けいとにいちちゃんは、わたしが足をけがしたときに、家までおんぶしてかえってくれました。とてもうれしかったです。

いつもは、やさしいおにいちちゃんだけどたまにテレビのチャンネルのとり合いでけんかになります。けんかになったらわたしがまけてないてしまいます。

でもべんきょうを教えてください、こまっていたらたすけてくれるわたしのみかたのヒーローです。

これからも二人のやさしいおにいちちゃん、わたしのヒーローでいてください。

いつもありがとう。

あんなより

友だちは宝物

神倉小学校三年



わたしは、友だちがいっぱいいます。

いっしょに遊んでくれる友だち、いっしょに学校に行ってくれる友だち、雨の日は、トランプやおはじきをして遊ぶ友だちもいます。

ほかにも、助けてくれる友だちもいます。

一番高い鉄ぼうで、わたしはさか上がりをしたかったけど、一人でやったらできませんでした。だから、友だちに手つだつてもらいました。そしたら、さか上がりが出来ました。友だちに足を

上げてもらって、さか上がりが出来たしゆんかんがとても気持ちよかったです。一人でやるよりも、友だちと二人でやった方が、二倍うれしい気持ちになりました。

一番なかのよい友だちでも、けんかをすることもあります。わたしは、ようち園から大のなかよしの大切な友だちがいます。その友だちと大げんかをしたことがあります。

三年生の一学期のことです。わたしは、ブランコの所でみんなと遊ぶやくそくをしていました。その後、遊ぶ場所がかわりました。そのことを大切な友だちなのに話すのをわすれていました。だから、その友だちとだけいっしょに遊ぶことができませんでした。それがもとで、友だちはとてもおこりました。わたしは、とてもひどいことをしてしまったと思いました。でも、すぐにあやまれませんでした。次の日から、

「おはよう。」

と、あいさつはするけれど、いつもみたいに楽しく遊べませんでした。あやまりたかったけど、あやまれませんでした。あの時、学校ですぐあやまればよかったと後かいしました。わたしは、三日後に手紙を書きました。

「前は、ごめんね。」

と書きました。そして、友だちの家のポストに入れました。次の日に、友だちがわたしに手紙を返してくれました。

「いいよ。だいじょうぶ。」

と返してくれました。手紙のおかげで、なか直りできました。後から聞いたら、友だちも

「あやまりたいな。」

と思ってくれていたそうです。その後からは、いつもみたいにいっしょに遊んだり、しゃべったりしました。けんかをしたけど、大切な友だちなので、なか直りできてよかったです。

友だちとは、けんかもするけれど、みんなといっしょにいると楽しいです。それは、いっぱい友だちとなかよくなって、いっぱい遊ぶからだと思います。

友だちって、いつも遊んでくれたり、やさしくしてくれたり、うれしい気持ちにしてくれます。友だちはすごいなと思います。わたしも、友だちのことを考えてみたいです。うれしい気持ちや、わらわせて楽しい気持ちにしてあげたいです。友だちとけんかをしないように、友だちの気持ちを考えたいです。友だちのいいところを見つけて、まねもしてみたいです。

わたしにとって友だちは宝物です。みんなは、友だちはすきですか。わたしは、大すきです。

わたしは、友だちがいるから毎日が楽しくて楽しくてたまりません。これからも、友だちといっぱい遊びたいです。

ぼくのひいおばあちゃん

高田小学校四年



ぼくには、ひいおばあちゃんがいます。ひいおじいちゃんは、ぼくが一人になるとすれちがいて亡くなりました。この作文は、ぼくの大好きなひいおばあちゃんのことです。

ぼくのひいおばあちゃんは、八十七才。今でもバスに乗って買い物に行きます。ひいおばあちゃんは、新宮のおじいちゃんとおばあちゃんの家にいっしょに三人でくらしています。ひいおばあちゃんの家に行くとぼくは、いつも決まってひいおばあちゃんとねます。ひいおばあちゃんは、いつでも

「岳は、いつまでいっしょにねてくれるかなあ。」

と少し心配そうです。ぼくは、ひいおばあちゃんとすぐ途中で、色々な事を教えてもらいました。例えば、戦争中の事についてです。戦争は、ひいおばあちゃんが中学生だった時にあったそうです。いつもねる前にこの話をしてくれます。空しゅうが来た時、汽車に乗っていたのでそのままトンネルにかくれたそうです。この話を聞いてぼくはとてもおどろきました。おどろいた理由は、そんな事があったなんて想うできないなと思ったからです。また、夜中でも空しゅうが来ると、

「そら来た。」

と言って、ぼう空ごうににげたそうです。このことを知って、ぼくは、いっどこにいても空しゅうはあったんだなと思いました。そしてとてもこわいなと思いました。このようにひいおばあちゃんから戦争の話を聞いて、戦争は、本当に悲しいことだなと思いました。

またひいおばあちゃんは、今年の運動会におうえんしに来てくれました。昼休みにはいっしょにべん当を食べたり、話をしたりしました。とてもうれしかったです。

ひいおばあちゃんの家に行った時、ぼくが

「夕飯にうどんが食べたい。」

と言うと、ひいおばあちゃんは、いつも

「よっしゃ作ったろ。」

と言って作ってくれます。ぼくは、とてもおいしいなあと思います。

それからひいおばあちゃんからひいおじいちゃんの事も教えてもらいました。ひいおじいちゃんは旅行があまり好きではなかったけれど、ぼくが行くことになる、いっしょについて来てくれたそうです。ぼくは、その時小さかったのでひいおじいちゃんの事をしっかりおぼえていないけれど、ひいおじいちゃんの事をひ

いおばあちゃんから教えてもらえてよかったです。
これからひいおばあちゃんとしてみたい事があります。それは、
みんなで少し遠い所に旅行に行く事です。ずっと長生きしてほしいです。そして家族で仲良くくらしたいです。

かわいい妹

王子ヶ浜小学校四年



今年、私に妹ができました。妹の名前は、「ことね」です。ことねが生まれたことで、「お姉さん」がどんなに大変なのかを知りました。

妹が生まれる日、お母さんはとてもおなかがいたそうでした。でも、私はそんなお母さんを見守ることしかできませんでした。

一月十五日、午前二時、ようやく妹は生まれました。私はとても感動し、うれしい気持ちでいっぱいになりました。私はとても

お母さんと妹が退院する日、私は早く妹をだっこしたくてたまりませんでした。だから、帰ってくるたびに、妹をだっこしました。とても小さくて軽くて、命のぬくもりを感じました。

しばらくすると、私は、おむつ交かんのお手伝いができるようになりました。でも、いざかえようすると、妹は反対を向いてしまい、なかなか思うように交かんできません。早くかえないとぐずり出してしまうので、あせると余計にうまくできません。

また、離乳食を食べせようとすると、すぐにはき出してしまったり、食べているとちゅうに立ち上がったりますので、とても時間がかかります。

他にも、泣き止まそうとしても、すぐに泣き止んではくれません。私は、上手く妹のお世話をできずにいました。でも、お母さんはいつも上手に妹のお世話をしているので、そのたびにお母さんのすごさを感じました。

ある日、お母さんから、私が赤ちゃんだったころの話を聞きました。今のことねと同じようにしてもらっていたことや、自分も大事にされていたことを知り、とてもうれしかったです。

妹のお世話は大変ですが、妹が生まれてきてくれたおかげで、楽しいことがふえ、毎日いやされています。だから私は、そんな妹をこれからも大事にしていきたいと思います。

ことね、私の妹になってくれて、ありがとう。

おかあさんの仕事

熊野川小学校四年



私のお母さんの仕事は二つあります。一つ目の仕事は家の家事です。二つ目の仕事は、はたらきに行く仕事です。お母さんは、朝八時ぐらいから、昼の二時三十分ぐらいまでりよかんのそうじをしています。そして四時に私や弟のおむかえに来てくれます。そして、五時くらいから夕はんのしたくをしてくれます。その間、私は、せんたくものをたたんだり、テレビを見たり、宿題をしたりしています。私がせんたくをたたんだら、妹が手伝ってくれるので十五分くらいでおわるけど、お母さんは、いつも一人で全部やっているの、とても大変だと思いました。お母さんが、全部やってくれるから、わたしは勉強をすすんでやるので、やつ

ぱりお母さんがいてくれて、うれしいと思いました。ですが、たまにイライラします。そして、お母さんにひどい口のきき方をしています。イライラしているときは、「なんでお母さんそんな言うの」って思います。でもお母さんが大好きです。家のことや、仕事など、家族のために、いろんなことをしてくれているお母さんをそんけいしているし、そんなふうになりたいと思いました。そして、もつと家のお手つだいをしたいと思いました。

私とお母さん

高田小学校五年



わたしは、弟、妹、お母さんの四人家族です。今日は、私とお母さんのことについて話そうと思います。

私のお母さんは、保育園の先生をしています。まだ、めんきよを持っていないけど、今度、めんきよを取るためのしけんを受けます。私とお母さんは、よく口げんかをします。私は負けずぎらいなので、言われたら絶対言い返すということをしてしまいます。よくする口げんかの内容は、都会のよさといなかのよさについてです。お母さんは、高田のような感じが好きです。私は、どちらかというと都会の方が好きなので、その事でよく対立します。でも、すぐに元にもどります。例えば、口げんかを夕がたしたとすると、夕ご飯のときには元にもどります。これは、家族だから、友だちや、おじいちゃん、おばあちゃんたちと、ちがって長くいっしょにいるからだと思えます。このことが、あたりまえになっているということもあるけど、相手のことをよくわかってい

ら、ゆるし合えるのだと思います。私は、相手がお母さんでもやっぱり言えないこともあります。そして、お母さんも私に言えないことがあると思います。そんなお母さんでも、私のことをとてもたよってくれます。お母さんの友達となにかあると私に相談してくれます。私は、できるだけベストの答えを出せるようにがんばります。私の考えで解決した時はとても嬉しいです。

よく、夕飯の時に、弟や妹の好きなごはんなどがでるとお母さんは絶対に弟、妹にあげます。お母さんは、私にも同じようにくれますが、私はお母さんにも食べてほしいのでもらっても返しません。でも、やっぱりお母さんだから弟と妹にあげます。そういうのを見ると少し悲しいときもあるけどそれは、すごく優しいことなんだと思います。

お母さんは、私によくおこります。私がずっとスマートフォンをいじっているときや、ずつとごろごろしているとき、家の手伝いをしないときなどにおこります。お母さんはおこった後、私のためだとよく言います。その時私は、ただ、おこられるのがすごくいやで聞いてはいたけどあまり真けんには聞いていませんでした。でも、今、考えなおすとおこったのは本当に私のためだと思えます。最近、自分で布団を毎日しいて、食べた後の食器は片付けて、決められたお手伝いをしつかりやるように心がけています。でも、たまに、いやになるときもあって、しないでいるとおこられるけど、お手伝いをする事で、できるようになったことがたくさんあります。

私は、ある本を読んでその日から気をつけるようにしていることがあります。それは、朝の「いってきます」という言葉です。その読んだ本の主人公が事故にあいます。その日、主人公は、お母さんとけんかをして出かけた後、事故にあったのです。もうこれで自分が死んでしまうんじゃないかと思った主人公は、

「けんかするんじゃないかった。謝っておけばよかった。」
と思います。私は、読み終わった後に朝は、しっかりと「いってきます。」を言おうと思いました。そしたらきつとこの本の主人公のような思いをしないだろうと思ったからです。

お母さんは、私のことを、負けずらいで手におえないと思うときもあると思います。でも、私は、お母さんの仕事の話や、好きなまんがの話を聞くのがとても好きだから、これからもたくさん話を聞きたいです。

お母さんにはこれからも私をたよってくれとうれしいので、たくさんたよってほしいです。

差別はいけない

神倉小学校五年



差別はしてはいけません。だれもが平等に生きる権利があります。

世界にはさまざまな人がいます。はだの色や目の色、かみの色がちがう人。話す言葉や書く文字がちがう人。元気いっぱいの人。ケガや病気とたたかってがんばっている人。生まれた所や育った所がちがう人。育ったところがちがえば食べ物や着る物にもちがいがあり、ちがいをあげればきりがありません。生きている人の数だけちがいがあります。共通して言えることは、同じ地球に生きているということです。

ぼくは、考え方や思いのちがいはあっても、相手の立場になって考えることや相手を思いやって行動することが大切だと思います。

す。大切なことは、自分がされていやなことや言われていやなこととは絶対にしないことです。受け止め方はそれぞれちがうので、むずかしいと思いますが、自分に置きかえて考えてみればわかりやすいと思います。

ぼくには得意なこと、苦手なこと、好きなこと、きらいなことがあります。どんなにがんばっても、うまくできなくてくやしい思いをすることもあります。そのことで、悲しくなることを言われたこともあります。言われただけで、そのあとに何かされたりすることはありませんが、もし何かされていたとしたら、それは、「差別」につながるのではないかと思います。

人間が一人一人ちがうのは当たり前前で、それが個性なんだと思います。おたがい個性をみとめ合い、世界中の人が笑顔で楽しく毎日を過ごすことができるような、そんな世の中になつてほしいと思います。だから、ぼくはちがいがかり見つけていくのではなく、よい所やがんばっている所を見つけていきたいと思っています。

この人権作文を書くことで、家族と話したり、自分で人権について興味を持ちました。これからも、思いやりを持って過ごしていきたいと思っています。

自分と違うのはあたり前

三輪崎小学校六年



みなさんは、差別について考えたことがあるだろうか。私は六年生で習った社会の授業に影響されて調べ始めた。その教科書に

は、「昔、身分がちがうだけで差別されていた。」と書かれていた。それを読んで私は、差別はまだまだたくさん行われていることを思い出した。

すると、なぜ人は差別をしてしまうのかを疑問に思い、調べてみると、色んな考えがあふれていた。その中で二つ納得できるものを挙げてみたい。

一つ目は、「弱い人が自分に自信がないという理由だけで、他者を差別して優越感を味わうため。」二つ目は、「自分と違うと思うところから始まり、自分との違いが大きければ排除＝差別する。」という文だった。二つ目の文に関しては、確かに差別にまではいたらなくても、他者と自分を比べてしまうことは自分にも心当たりがあった。多分この気持ちが強くなればなるほど、差別につながってしまうのではないだろうか。

でも、世の中にいろんな差別がある中で、どれも共通していることは、「はずかしい」という言葉だと思う。なんでこの言葉が共通していると思うかというと、先程、差別をする人は、自分に自信がない弱い人だと言ったが、私はこれを、弱い自分はずかしいから、それをかくすために、差別をしてしまうということではないだろうかと考えたからである。

では、みんなが強くなればいいのではないかと思うかもしれないけれど、それは無理だと思う。なぜなら、みんながみんな強く生きられるわけではないから。

差別をするのは、他者の悪いところに目をむけているということだから、逆に相手の良いところ（長所）に目を向けられればいいのではないかと思っている。これならば少し意識すればだれもができることではないだろうか。

調べてみた結果、この意見の他に、「過度な欲を捨てることも大事。」だと書かれていた。

いろいろ考えてみたけれど、やはり、差別は人を傷つけるものになり変わらなかった。でも、分かったことは差別をなくそう、減らそうと思うよりも、人の長所も短所も受けとめられる心を持つことが、一番大切だということだ。それと同時に、自分とまったく同じ人間なんて存在しないのだから、自分と違うのはあたり前だと考えられるようになることも同じくらい大切な事だと思う。これから、私にできることは、この調べたことをみんなに知ってもらい広げていくことと、私も覚えたことを活かしながら、忘れないようにすることだ。

バリアフリー

王子ヶ浜小学校六年



衝撃を受けたニュースを、以前見たことがあります。それは、車いすの男性が飛行機に搭乗する際、タラップを自力で上がることでできなかったため、搭乗を拒否されたニュースです。仕方なくその男性は、タラップを、手ではい上がって、搭乗したそうです。

車いすの男性の友人が、車いすごとかついで、タラップを上がろうとしたのですが、これを見た空港職員に制止され、自力で手ではい上がったのです。この友人は、車いす男性のこのような姿を目の前で見て、どう思ったのでしょうか。私ならつらくて、悲しくて、空港職員に対して、腹が立ちます。

この、航空会社の内部規程で、車いすの人は事前に連絡することやタラップの上り下りに手助けができない事などがあるように

すが私は、目の前で、困っている人や助けを求めている人がいれば、手助けしてあげたいです。もし私が、逆の立場になれば、助けしてほしいです。

私は、健常者も障害者の人も自由に飛行機に乗って、世界中を旅行できる社会になってほしいと思います。障害者の人は、遠りよせず、気軽に、「手伝って」と言えるような、バリアフリーな社会になってほしいと思います。

バリアフリーの社会になるためには一人一人が、目の前で困っている人がいたら手助けをする、声をかけをすることを、心がけるように努力すれば、より住みやすいバリアフリーな社会になると思います。

現在、ショッピングセンターや病院や道路などに、点字ブロックやスロープなど昔と比べて、段差などが取り除かれ障害者の人が行き来しやすい街になってきています。それなのに、この空港での出来事は、時代に逆行しているニュースだったので、すごく印象に残り、衝撃を受けました。

国語辞典で「バリアフリー」を調べてみると「建築で段差をなくすなど、高齢者や障害者の生活の妨げを取り除くこと。」と書いてありました。

今回の空港での出来事を通して、偏見などによって、他と区別し、不平等なあつかいをするような差別などがなくなるような、心のバリアフリーな社会になるように努力したいです。

自分の気持ち

熊野川小学校六年



感情を表に出さないこと、それは友だちならしてもいいことなのか。例えば、無表情でいること。それでは、周りの人は楽しくない。だから笑うことは大切だと思う。もう一つ、無視して何も話さないこと。それは、絶対にやってはいけない。

感情とは、「自分の心の働きだ」と私は考えた。辞典を開いてみると、「感情とはうれしさ、悲しさ、楽しさ、いかりなどの気持ち」とのっていた。うれしいと表情が明るい、悲しいと表情が暗くなる。この心の働きが感情だ。みんなが遊んだり、笑ったりしていると自分も仲間に入って、一緒に笑いたくなる。でも、そういう気持ちになれないこともあるかもしれない。例えば、こんな時はどうだろう。だれかにしかられたりして、イライラする。

こんな経験は、よくあると思う。一人でいたいときや話しかけられたくないときもあるだろう。そんなとき、自分のイライラを人にあたるのは良くない。そんなとき、イライラをなくす方法がある。それは、友だちといっぱい遊ぶことだ。この方法以外にもたくさんあるだろう。

このように、感情を表に出していいときと良くないときがある。もし、友だちが元気そうじゃなかったら、周りの人が元気づけたら良い。遊んでいたら、いつの間にかイライラがなくなっているのだから。

中学生の部

障がい者の人達と交流して

熊野川中学校一年



障がい者の人々との交流について、なぜ僕が、書こうかと思っ
たかというと、杉の郷という所へ、中学校の行事で行って、色々
なことを勉強したからです。杉の郷は校区の赤木という所にある
障がい者施設です。中学校の行事で、一年生で一回だけ行きまし
た。貼り絵や、出し物、ゲームなどをして、障がい者の方達と交
流をしました。それがきっかけで、書こうと思いました。

僕がその障がい者の方達と交流して、いろいろなことを話した
り、一緒に貼り絵をしたりしました。僕は、交流会で、一人の人
と話をしました。その人が話していたのは、昔の自分の話をして
くれました。自分のクラブのことを話してくれたり、彼女さんの
話をしてくれたり、お友達の話をしてくれたり、自分が得意な事
も教えてくれたりもしました。僕は、その話を聞いて、すごく
楽しかったし、すごく感動したりしました。もっと話をしたかつ
たなあと思ったりもしました。しかも、僕が質問をしたりしても、
話を聞いたりもしてくれまし、僕が、これをやってくださいと
言ったら、全部言うことを聞いてくれて、嬉しかったなあと思
いました。こんな交流会があつて、僕はすごく面白かつたし、楽
しかったし交流をもっと続けたりしてくれたらいいなあと思いま
した。

さらに、僕は天理教で、障害のある人達のボランティアをして
いて、一ヶ月に一回、エアコンのフィルター、換気扇の掃除をし

ていて、みんなで、協力をして、「これ持って行って」とか「こ
れ洗って」とかいいながら、天理教のボランティアをお父さん達
がしています。たまに、学校の無い日に僕たちも手伝いをしてい
ます。

でも僕は、たまにめんどくさいからいきたくないと思ったり、
「つかれたから行きたくない」と言ってさぼってしまうことがあ
りました。今になってみると、本当に、だらしないと思いま
した。もっと手伝いとかを好きになって、「行きたくない」とか言わ
ずに、もっともつと頑張つて行こうと思いました。

僕は、一ヶ月に一回くらい、障がいを持っていてしゃべること
ができなかったり、耳が聞こえない人がいたり、目が見えない人
達と会う機会があります。そんな方々も、皆さん優しくかったです。
僕は、正直、最初に思ってしまったって勘違いしてしまっているこ
とがありました。それは、障がい者とは、よく分からないことす
るので、少し怖い人達だと思っていました。でも、今は、中学校
の交流会や、天理教のボランティアを通して、優しい人達なんだ
なあと思いました。それに気づいて僕は、少し成長できたかなあ
と思いました。

学ぶ環境

高田中学校一年



私には今、行きたい高校があります。夏休みにはオープンスク
ールにも行ってきました。

しかし、その学校は兵庫県にある県立の高校で、入学するため

には県内に住まなければならないという条件があります。寮もなく、近くに親せきもないので、県外に住む私は、あきらめるか、おばあちゃんと一緒に家を離れてマンション暮らしをしながら通うかで悩んでいます。

なぜその学校に行きたいかという点、自分の学びたい学科があるからです。その学科名は「動物科学科」です。見学に行った学校では、馬や牛などの家畜についてだけでなく犬やタカについても学ぶことができます。資料でそのことを知り、ぜひこの学科で学んでみたいと思うようになりました。

私は、動物に関わる仕事に就きたいという夢を持っています。そこで、動物について専門的に学ぶことができる高校を探してみました。自宅の近くにはほとんどありません。畜産についてだけ学ぶ高校ならまだ数が多いのですが、家畜以外の動物についても学べる「動物科学科」のある高校は全国に県立高校が十二校あるだけでした。見学に行った高校が自宅から一番近いのですが、それでも車で五時間はかかります。資料を見ただけでは細かいところまで分かりません。資料だけでは伝わらないことがあるのではないかと思いついてみました。しかし実際に行ってみて、和歌山県から進学するのは簡単なことではないのだとわかりました。それなら、専門的に学ぶのは普通科の高校を出てからにすればいいのではないかという人もいるかもしれません。でも、私は少しでも早く専門的な勉強をし、自分に合う仕事を見つけて長くしていきたいと考えています。

また、中学校を出てすぐ専門学校や通信制高校に進むという道もあるかもしれませんが、でも、それでは家を離れて一人暮らしをする費用と授業料がかかることになり、自宅から通える高校へ行くよりも親に負担をかけてしまいます。それに専門学校では、専門の勉強はできても、普通の高校生活のような経験はできないと

思います。私は、できれば高校生活をしながら、専門的な知識を身につけて、三年間で将来就く仕事を決めていきたいのです。しかし、いろいろ考えてみると、やはり私の望みを叶えるのは難しいようです。何かあってもすぐには帰ってこれられないし、おばあちゃんは腰が痛いと言っているのに今よりも負担をかけてしまいます。だから、もう少し近い所に似ているような高校はないか探しています。

そして今回のことから私は、なぜどの県の生徒でも、皆同じように自分の学びたいことが学べないのかと考えるようになりました。私以外にも、自分の学びたい学科のある高校が近くになく、簡単に引越してもできなくて悩んでいる学生がたくさんいるかもしれません。私にはまだ、おばあちゃんとマンションを借りて住むという方法がありますが、それも難しい人は、受験する前にあきらめるしかありません。例えば、自分のやりたいスポーツをするために、自宅を離れて県外の高校に進む人もいます。しかし、やはり家の事情で難しい場合もあるでしょう。地元の生徒が通えなくなるかと、逆に生徒が集まらないかもしれないなどの問題があるようですが、せめて日本のどこに住んでも行きたい学科のある高校に進学できるようになれば良いと思います。

最近では、経済的な理由で高校や大学への進学そのものをあきらめなければならない人もいます。また、世界には学校にさえ行けない子供達だっています。子供にも権利があつて「教育を受ける権利」もその一つだと聞いたことがあります。私は国の税金で学校を建てればいいと思います。救急車なども税金を使います。だから子供達の未来のためにもっと税金を使っても良いのではないかと思つたからです。どの子も自分の学びたいことが好きなだけ学べるような世界になればいいと思います。

学歴からくる差別

光洋中学校一年



私は、家でテレビを見ているときに、こんなことを聞きました。

「あの人は大学に行っていないから。」

その言葉を聞いたときに、はっとしました。

どうしてかという、それは差別だからです。

「あの人は大学に行っていないから。」

「あの人は、あそこの大学だから。」

という理由で、仕事ができないと決めつけたりするのは良くないと思います。

私は、みんなが平等で明るく楽しい社会のほうがいいと思います。そのためには、周りの人が、

「大学を出ていないから。」

と差別するのではなく、学歴以外のところにも目を向け、

「あの人は、とても気がきいて、いつも優しい。」

などと、その人のいいところを見つけることが大切だと思います。そうすることで、大学をでていないという理由で差別されていた人も毎日、楽しく過ごせるようになると思います。

しかし、私一人がそう思っているだけでも差別はなくなりません。差別をなくすには一人だけが行動するのではなく、社会全体が優しい心をもって行動することが大切だと思います。

そうすると、テレビなどでも

「あの人は大学をでていない。」

「あの人は、あそこの大学だから。」

「大学をでていないから仕事ができない。」

という声は、だんだんなくなっていく、

「あの人はとても気がきく。」

「あの人は優しい。」

「あの人は真面目だ。」

「あの人は仕事ができる。」

と、だんだんだんだん良い声が聞こえてくるようになると思います。

しかし、これは私の個人的な意見です。みんなが学歴からくる差別をなくそうと思えばもっといい意見が出てくると思います。

そして、そのいい意見をみんながテレビなどで知ったら、また、他のだれかが新しい、いい意見を思いつくかもしれません。そして、その意見を、また広めていく。

このように、いろいろな方法で意見を広めていくことは出来ると思います。一人が一ついい意見を思いついて、その意見に対して、何人かで話し合い、討論をする。このようなことも可能です。これは私が思いついた意見です。一人でも一つでも意見を思いついて、みんなで協力していけば、もっとたくさんの意見が見つかると思います。

学歴以外の差別もこのように無くしていけたらいいと思います。

共に生きる社会をつくる

緑丘中学校一年



僕の周りには、大勢の「仲間」がいる。友達だけではない。家族も、先生も、近所に住む人達も仲間である。仲間を大切にする

ことは、「人」として一番大切なことだと思う。

まず、仲間とは何なのだろうか。僕たちは周りの人々と支え合って生きている。例えば、学校の授業だ。分らないところは、友達と相談し、協力する。解けた喜びを一緒に感じている。また、間違っても励まし合える。だから、学校は大切な場所だと思う。

では、学校が一番教えたいことは何か。「勉強で身に付く知識」なのだろうか。「人の話をよく聞くこと」だろうか。確かにそれもあるだろうが、一番教えたいことは、違っている気がする。それなら家でも勉強できるし、どこだって人の話は聞ける。僕が思う「学校で一番教えたいこと」とは、「共に生きること」だ。これから先、僕たちは様々な人と関わって、社会をつくっていくかなければならない。その中で生きていくためには、これが一番重要になってくる。

しかし、最近、「自殺」という言葉をよく耳にする。仕方ないと思っている人もいるだろうかもしれないが、僕はそうは思わない。それは防ぐことができるからだ。例えば、ある人が死にたくなる程の悩みを抱えているとする。放っておけば、その人は自殺してしまうかもしれない。それは、「悩みを打ち明ける仲間がない」からだ。そうすると、「ああ、誰も自分の事なんか気にかけていないんだな」と考えてしまう。しかし、近所の人や声をかけたとする。「調子はどう？」もちろん挨拶でも構わない。「こんにちは」でも良い。その一言で悩んでいた人は「自分を気にしてくれる人がいる」と考えるようになる。こうして自殺が食い止められるかもしれないのだ。

「孤独死」というケースも例外ではない。「孤独死」というのは、亡くなった時に誰にも看取られず、死後しばらく経ってから遺体が発見されることをいう。この原因も「気付いてくれる人がいない」からである。そのため、高齢者によるものが多い。これらを

防ぐためにも、やはり「その人を気にかける人」がいることが大切だ。一人でも気にかける人がいれば、必ず防ぐことができる。

つまり、双方ともに「声を掛け合う」ということが重要だ。その「声を掛ける人」は、「仲間」なのである。

このようなことから、僕たちの社会づくりの目標は次の二つである。一つ目は、「仲間と暮らす社会」、二つ目は、「安心できる社会」。僕はこれから先、仲間と共に、これらをつくり上げていきたい。

最後に、これだけは忘れないで欲しい。今、僕たちが生きているのは、家族や先生などの「仲間」がいるからだということを。そして、「仲間」を大切にすることは、人として生きていく上で、一番大切だということを。

障がい者の人権問題

熊野川中学校二年



これは、去年のことです。王子ヶ浜小学校で市内の通級で学んでいる小学生、中学生、そして、みくまの支援学校の中等部、高等部の方と運動会をしました。弟が通級していたので私も呼んでもらい参加しました。

色んな年齢とさまざまな人がいたので、どんな人でもできる種目がありました。

ほとんどの人が初対面同士だったと思います。絶対参加ではないのでやらないで見てもよかったんですが、参加しました。

リレーの時、たいがい大人は、恥ずかしがって歩いているよう

な、走っているような感じですが、ここに来ている人たちは全速力で走って人の目も気にせず楽しそうに走っていました。それが本当に楽しそうだったので見ているこっちも面白かったです。

並んでいた時、私より年上の男の人に、肩をたたかれました。横を見てみたら、笑顔で手話で話している人がいました。私はどうすれば良いか分からなくて見ているだけでした。その人は私が手話をできない事を察したらしくてがっかりした様子で前を向いていました。せっかくコミュニケーションを取ろうと言葉の手を差しのべてくれているのに、私が何もしないのは無視していることと一緒に気がします。せめて自分がやれることは手話を少し覚えるか紙とペンで文字を書くかだと思います。

意思の疎通が出来なければ何にこまっているか分からないし、何が手伝えるのかが分かりません。これは、外国人と話をしていてみたいだなあと思いました。

外国の人とコミュニケーションをとるために、一生懸命英語を覚えるように、手話も習えたらいいのかなあと思いました。

障がい者と言われたら何かが苦手というイメージもあるかもしれませんが、逆にとても得意な物があると思います。

みんなが手話を理解できたら、言葉が話せずに手話をしている人は障害者ではなくなると思います。

もう一つ知ったことがあります。それは、障がい者の人たちもいろいろな所や仕事で活躍しているということです。

月に何度か、父が仕事場でお土産を買ってきてくれます。それは障がい者の人たちが施設で作った物です。米粉を使ったピザやプリン、パンナコッタやパウンドケーキです。どれもおいしいですが特にピザやパンナコッタが好きです。作る人にもはげみになるし、買う方も楽しみになります。その人達もちゃんと税金を納めているからすごいなあと思いました。私もおかし作りが好きで

す。好きですが、家族にあげるぐらいです。この人たちみたいに売り物にしようと思ったら、殺菌にも気をつけなければいけなし、もちろんおいしくしなければいけないし、毎回同じ味にしなければいけないという気を配ることがたくさんあるのに、遊びではなく仕事として、しているから大変だなあと思いました。

どんな障がいがあるうか無かるうが関係なく皆が工夫してお互いに歩みより、苦手なところを補い合えば障がいはいじやなくなるし、耳が聞こえない人同士で手話をしたらさすがに限界もあります。聞こえる人も手話が出来ればコミュニケーションがとれるし、何に困っているか、どう助けて欲しいのかが分かればより良い社会になると思います。

いじめに対する考え・対応

近畿大学附属新宮中学校二年



いじめ。それは今、世界中のあちこちで起こっています。テレビニュースでも、いじめがきっかけで自殺をしてしまったというニュースをたくさん見ます。でも、普通に暮らしていたら起こらないはずのいじめ。ではなぜいじめはたくさん起こっているのでしょうか。いじめをなくす方法はあるのでしょうか。

いじめと言っても、たくさん種類があります。暴力的ないじめ、精神的ないじめと様々です。日本では、どちらのいじめもありえます。一人に対して集団でいじめを行います。始めは無視から始まります。終わる時もあれば段々とエスカレートする場合もあります。そんな時、大人達の対応はどうでしょう。大人達はいつ

でも「私達は君の味方だよ」と言い、いじめをしている生徒を注意します。でもそれでいじめが終わるわけではありません。むしろ、エスカレートしてしまいます。では子供は誰に相談したらいいのでしょうか。これは大人達がいじめに対する対応を根本的な所から見直す必要があると思います。そうしない限り、まずいじめはなくならないと言えるでしょう。世界から見ると日本は、戦争もなくみんなが互いに助け合う平和な国と言っていますが、もっと細かい所を見てみるとたくさん問題があります。それを改善しなければ本当の平和は来ないと思います。

なぜこんなにも多くいじめが起こるのでしょうか。日本では一年で約二十二万回起こっています。世界ではもっと多くのいじめが起こっています。

いじめをする理由は人それぞれです。例えば、少しその子がむかついたから。その子がうざいから。やってみたいから。日本ではだいたいこの理由が一般的です。でも、世界の中では、日本とは全くちがう理由でいじめをやっています。その理由は、身分のちがいでいじめを行ったり、肌の色の違いで差別をしていじめをしたりなど理由は様々ですが、色々な理由がいじめを起こさせる原因なのです。

私には、いじめを集団で行う人達は弱い人間だと思えます。一人の時は、みんなに合わせて顔色をうかがい、みんなの機嫌をそこねないようにしないといけないのです。すぐ息が詰まる生き方だと思いませんか。そんな事はせず、思いっ切り楽しみたいです。そのためには、一件でも多くのいじめをなくさないといけません。一件でも多くのいじめをなくすために今私たちができる事はないのでしょうか。いいえ、あります。それは、一人ひとりが自分の考えをちゃんと持ち、その気持ちを自分の中にとじこめ、しまいこまずにちゃんと相手に自分の意見を言う事です。そうす

れば、自分の考えが相手に伝わり、その考えがまた別の人に伝わり、たくさんの人々に伝わり、いじめに対する考えが少しでも変わるかもしれません。自分が勇気を出して言った事が尊い命をたくさん救うことになるかもしれないのです。一人ひとりのちよつとした勇気で世界が変わります。私もそのちよつとした勇気を持てるようになりたいです。

子供たちが平和に暮らせるために

光洋中学校二年



毎日私たちは、朝起きて、ご飯を食べて学校に行きます。授業を受け、友達と話をし、部活動をします。夜には、家族とともにご飯を食べます。こんな生活を、毎日過ごしています。私は、何げ無く過ごしてきたこの日常がどれだけ幸せだか気づきました。

世界には、私たちにとって、至って普通の生活ができていない子供たちがたくさんいます。その子供たちは毎日、朝から夜までずっと働いています。それは生きるために賃金をもらうためです。しかし、賃金は極めて安いそうです。賃金が安いと、食糧が買えず、食べるものがなくなり、不健康になってしまいます。学校に通い元気に遊んでいるはずの子供たちが、このように、生きるために働いているのです。毎日、朝から夜まで働くなんて大人でも大変です。私だったら、苦しい環境で働いて生活するなんてできません。なのに、私より小さい子供たちが一生懸命働いて、必死に生きようとしています。その姿がとても輝いて見え、「生きる勇気」をもらいました。子供なのに、学校に行って勉強をし

たり、友達と遊ぶことができないのが、とてもかわいそうだと思いました。私たちは毎日、学校に行ったり、ご飯を食べたりして、とても贅沢で、幸せな生活を送っているのだと改めて感じました。このような貧しい国では、水道が整備されていなかったりするために、きれいな水を飲むことができません。汚い水を飲み、病気になってしまいう人もいます。そんな人々の生活が少しでも楽になるようにと、小学生の時に募金をしました。これからも、貧しい人々を助けるために募金をしたり、いろいろな活動に参加していきたいです。

このような貧しい子供たちを支援している「ユニセフ」という機関があります。「ユニセフ」とは、世界中の子供たちの命と健康を守るために活動する国連機関の事です。その機関は、世界百五十以上の国と地域で活動しています。私は、この「ユニセフ」として活動することが、とても良い事だと思っています。理由は二つあります。一つ目は、一人では助けられないことでも、多くの人々が協力することによって、助けられるからです。二つ目は、支援された子供たちは少しでも楽になります。そして、支援した人々も子供たちの笑顔を見ると、「良かったな。」という気持ちになると思います。こうして、お互い幸せな気分になると思うからです。私は、人々を助けるといことがとても素晴らしいことだと、改めて思いました。だから、将来私も、「ユニセフ」のように人を助けて笑顔にするという仕事をしたいです。そして、「生きる勇氣」を与えてあげられる人間になりたいです。

私は、世界中の子供たちが、平和な生活をしてほしいです。世界中を平和にするためには戦争をなくして、様々な人権問題を解決していかなければなりません。そのためには、世界中の人々と協力して活動していくことが大切だと思います。

私は今まで、何げ無く日常を過ごしてきました。でも私たちは、

贅沢で幸せな生活を送ることができません。そのありがたさを胸で噛み締めながら毎日を過ごしていきたいです。そして、すべての子供たちの権利が守られる世界を実現させるために、様々なことを次の世代に語り継いでいくことが大切です。また、募金などの自分自身でも、できる活動を探して、参加していきたいです。

たった一つの命

近畿大学附属新宮中学校二年



命。それは、この世の中で一番大切なものだとは思いますが。

「この世の中で一番大切なものは何ですか。」と尋ねた時に、「お金」と答える人がいます。「家族・友達」と答える人もいます。お金は無いと不便です。友達や家族がいないと毎日が楽しくありません。どれもとても大切なものです。しかし、命はたった一つです。一度失うと、もう元には戻りません。

この世の中には、生きたくても生きられない人達がたくさんいます。私の知り合いにもいます。お母さんの友達です。彼女は、私も小さい頃からよく知っています。彼女はとてもやさしく、いつも笑顔で明るいすごく良い人です。しかし、彼女は末期のガンになってしまいました。初めて私がお見舞いに行った時、彼女は痩せていて、抗がん剤の影響で髪の毛が無い為、帽子をかぶっていました。その姿を見た時、私はびっくりしてしまいました。でも彼女は、いつも通り笑顔で私に接してくれました。その時、私はすごくつらくて大変でしんどいの、みんなに心配をかけないようにがんばって笑顔で接しているんだろうなと思いました。本

当にすごいと思いました。今もガンとたたかっている姿を見て、私も勇気をもらい頑張れます。普通に毎日を過ごせていることに感謝しなければいけないと思いました。彼女にはガンに勝ってほしいです。

病氣以外のことで亡くなる人もたくさんいます。事故やテロ、通り魔などです。事故やテロ、通り魔などでは、何も悪いことをしていない、全く関係のない人達の命がうばわれます。これらの事件のニュースを見ると、他人事の様に思ってしまうのです。しかしこれらの事件は、明日起こるかもしれません。私も明日、これらの事件に巻き込まれ、死んでしまうかもしれないのです。最近話題になっている北朝鮮ミサイル問題も同じことです。全く関係のない人が、このミサイルによって殺されるかもしれません。昔、日本でもあった戦争も同じです。戦争によって多くの命がうばわれました。この人達は日本の為に一生懸命戦ってくれた人達です。なのに、命をうばわれました。このように、生きたくても生きられない人達がたくさんいます。この人達は決して死にたくて死んだわけではありません。なのに、相手の理由で殺されました。しかし、反対に自分から命を絶つ人もいます。人間関係、イジメ、上下関係などが原因です。最近この「自殺」に関するニュースをよく見ます。一番よく見るのは、イジメられて自殺したという記事です。本当に些細なことから始まり、それがエスカレートして「イジメ」になってしまいます。そして、そのつらさを我慢できずに自殺してしまいます。自殺をしてしまうと、誰も喜びません。悲しむだけです。ですから、自殺は絶対にしてはいけません。人の命はたった一つしかありません。その命をどう使うかは、その人しだいです。しかし、自殺だけは絶対にしてはいけません。神様がくれたたった一つの命。その命を大切にすることが、私達の使命だと私は思うのです。

前とは違う生活で気付いたこと

緑丘中学校二年



私は起立性調節障害という病気を患っています。この病氣は自律神経の発達が体の成長に追いついていないことから起こるもので、中学生の十人に一人がこの病気を患っているそうです。症状も人それぞれで、私の場合は、めまい、頭痛、低血圧、食欲不振などがあります。

症状が初めて出たのは中一の夏でした。朝、目を覚まし、起き上がろうとしましたが、頭が上がらず、体に力が入りませんでした。朝から暑い日は体がだるい日もありましたが、それとは全く違ったので、母に伝えに行かなくてはと思いましたが、起き上がることができないのでどうしようかとベッドで体を動かしていました。そこからどうしたか記憶がないのですが、母に症状を伝えたと、母はすぐに病院へ連れて行ってくれました。そこで伝えられた病名が起立性調節障害でした。聞いたことのない病名に私も母も戸惑いました。この日から、朝起きられなくなったり、授業を受けていても頭を上げることがつらくなったりしました。

私がこの病氣になってから、とても気にしていることがあります。私の場合、朝、調子が悪くても、夕食から夜にかけて回復してきます。それはとても良いことなのですが、周りから見れば私が元氣に見えるので、なまけている、学校をさぼりたいから調子が悪いと言っているのではないか、などと思われているのではと気にしてしまいます。中一の夏休みの部活動では調子が悪く休んでしまった日が多かったので、さぼりだと言われているのではとすごく気にしていました。

前にこの病気について詳しく知るために、インターネットを使って調べたことがあります。そこには、自分が症状を訴えても朝と夜での体調が違つたため、なまけていると親に思われ、対策しなかった結果、症状が悪化したというケースやクラスメートの遅刻は先生が怒るのに、起立性調節障害の子が遅刻しても許されることから、この病気を知らない人からはずるいと思われ、そこからじめなどに発展していくこともある、と書かれていました。

最初に挙げた、親に理解してもらえないということは私にはありませんでした。私が調子が悪いと言ったとき、母はすぐに病院に連れて行ってくれたからです。その後も、この病気の対策を調べてくれたりしました。母にはとても感謝しています。特に、塩分を多く採ると良いと分かった時には、塩分を控えめにしろと言われていた父とは真逆で、一緒に笑ったことを覚えています。

そして、いじめに発展するということもありませんでした。私が遅刻しても、クラスメートは「大丈夫？」と声を掛けてくれます。授業のノートを見せて欲しいというと、すぐに渡してくれます。部活動も気分が悪い時はすぐに休むように声を掛けてくれます。ですが、やはりずるいと思われているように感じ、不安になることも多いです。

私はこのことから、周りの人には病気のことを理解してもらいたいです。中には知られたくないと思う人もいるらしいですが、私は誤解されたり、理解してもらえず、いじめられるより良いと思います。

私は症状があまり重くなく、すぐに対策を始められて、いじめられることもないので、とても幸せだと思います。症状が出るとつらいけど、それを乗り越えながら、日々の生活を過ごしたいと思います。

子供を守る

近畿大学附属新宮中学校二年



僕は最近、テレビのニュース、新聞などで児童虐待を受けて、小さい子が亡くなったというのをよく見かけます。こういった事件は年々増えているそうです。僕はなぜこういった非常に悪質な事件が毎年起こるのだろうと思い、児童虐待というテーマで人権作文を書こうと思いました。

児童虐待にも、いくつかの種類があります。身体を傷つけたり、食事を与えない、さらに暴言などを吐いて、心を傷つけたりなどです。こういった事をする人は、人として、最低だと僕は思います。なかなか自分の思うようにいかず、いらいらしたりする時もあるだろうけど、それでも、子供を大切に育てるのが親の仕事です。それができない人はあまえていただけだと思います。「疲れだから」などという親の身勝手な言い訳もよく耳にします。

小さい子は、周りの人たちに助けてと訴える事が難しいと思います。だから親が虐待をしてしまうと、どんどん悪い方向へ進んでしまう可能性が高いです。だけど虐待をしてしまう人も虐待をされて育ったのかもしれない。それなら、本人がいくら心がけても、そもその考えが違っているなら、結果は同じになっしまいいます。この悪い連鎖を断ち切るためには、個人個人の意気込みだけではとても難しいということだと思います。個人ではなく社会全体でこの問題を解決しようとする事が大切です。

子供を守るためには、虐待をしている親はもちろん、それに気づいているにもかかわらず、行動を起こさない傍観者の人たちが、被害者である子供たちへの意識を変えなくてはならないと思います。

す。「子供の泣き声がいつも聞こえる」などという異変に気づいているのにもかかわらず、「でも間違っているかもしれない」ということを恐れてしまい、結局行動を起こせずにそのままということになってしまうのです。しかし、この傍観者の意識が変わり、勇気を出したのなら、一人でも多くの子供たちを救えるかもしれません。もしそれが間違いや勘違いだったとしても、勇気を出して報告をする人はすごいと思います。こうやって周りの人も協力することによって、自分の行動に歯止めがかけられない加害者の親も救われていくのではないかと思います。僕は、その中に入っていないとしても、たった一言の呼びかけで、子供の人生を変えられることだってあるので、苦しんでいる子供たちのために行動できるような人になりたいです。

ここまでいろいろな事を考えてきて、親になるという事の責任の重さがとてもよく分かりました。虐待をしてしまう親の気持ちなども深く考えました。でも、もちろん児童虐待はだめな事です。大人たちには、もっと子供を授かることの重さや責任を知り、きちんと育てる決心をしてほしいです。僕が大人になって親になったとしても、両親が僕を大切に育ててくれたように僕も大切に子供を育てようと思いました。

性同一性障害について

城南中学校三年



私達が生きているこの世界の人々は、必ず男か女か、性別が決まって生まれてきます。

でも、そんな中で成長している途中に、自分の心や気持ち、自分の外見についていかず戸惑ってしまう人もいます。例えば、男の子として生まれてきたけど心は女の子だったり、女の子として生まれてきたけど心は男の子だったり、それは、人によってさまざまですが、こういう「病氣」を持っている人が、世界にはたくさんいます。そして、いろいろな言い方や種類があるのだと思います。私が、このような病氣を「性同一性障害」というのだそうです。私は、これを病氣や障害という言葉で表して、「この人たちは特別な人達で普通の人とは違うんだ。」というように分けてしまうことはあまり好みません。

私には、あまり個性や自分の意志で行動することが無く、優柔不断なのでそういう、自分の意志をはっきり持ち、自分の好きな格好をしていることは、とても格好良いな、すごいなと思います。こういう方々は、私にとっては尊敬に値する存在なのです。

性同一性障害の症状の現れ方について本で読みました。自分の身体的な性に対する持続的な不快感、あるいは嫌悪感、またその役割についての不適切感があるので、それと同時に自分とは反対の性に対して、身体的にも同じようになりたい。社会的にも反対の性で受け入れられたいなどの強い気持ちを持つそうです。

例えば、体が女性で心理的に男性であれば、スカートをはくのがいやでズボンばかりはくとか、思春期になり、体に変化があるとそれを隠すようなことが起こるそうです。また、反対であれば、ヒゲが生えているのが自分らしくないなどと感じ、できるだけスーツを着たりネクタイをするのを避けるようになったりするそうです。

また、性同一性障害とは少し違う、トランスジェンダーという存在の人たちがいます。トランスジェンダーの方は、生まれつきの性と自分が認識する性が違い、その違和感に苦しむ性同一性

障害、男女という二つの概念にとらわれることなく自分を表現するのです。

このような、トランスジェンダーの方と性同一性障害の方との一番の違いは、性同一性障害の方が、「自分の性別はどちらであるのか、自分で自覚している性別と戸籍上の性別との間にずれがある状態」で、トランスジェンダーの方が、「社会から認識される性と一致しないけど、自分らしい性を表現する人たち」。つまり、性別をはっきりさせようとしているのか、そうでないのかという違いがあるのです。

でも、こういう人達がいて、その人達も、その人達なりに、悩んだりしていることもあるのだという事を、覚えておきたいです。だから私は、こういった、心が入れ替わってしまっている人達を理解してくれる人が、少しでも増えて、どんな人でも生活しやすい社会ができればいいなと思っています。

もし、私と同じクラスにそういう人がいれば、私は他の人と接するときに同じように、その人とも話をしようと思います。

いじめに良い事なんてない

熊野川中学校三年



私は、ニュースでいじめを受けていた生徒が自殺するという内容を耳にしたことがあります。

いじめが起こる理由は、「人と違うから」や「ストレス解消のため」などこれだけに限らず他の理由で起こるいじめもあると思います。この世界には一人として同じ人はいません。なのに、周り

の人と少し違う所があるだけで、いじめるなんておかしいと思います。その子の個性として受けとめ、お互いを認め合うことが大切だと思います。ストレスが、たまっているからといって、他の人に当たって発散しようとする考えがおかしいと思いました。ストレスが自分の中で消えても、相手にストレスを大きくかけてしまうと思います。

私は、よく「他の人がしている」からや、他の子がいじめられているのに自分は何もせずに見ていると言うことを聞きます。これをしている人は、自分は悪くないとか関係が無いとか思っていると思います。しかし、それは間違っていると思います。私は、自分が悪いか悪くないかとかそういう問題では無く、相手を悲しい気持ちにさせてしまっているのに、知らないふりをしたり一緒に加わったりするのはなく、その子を助けるために行動するべきだと思います。自分を悪く見せたくないとか、自分がいじめられるのが怖いとかそういう理由を付けて知らないふりをするのはいけない事だし、してはいけない事だと思います。かわいそうだと思っているけど何もできないという人もいます。でも、思うだけでは何も起こらないし、相手にも伝わりません。だから、勇気をだして相談にのってあげたり一緒に行動したりいじめている人に「やめて」と言うことができれば、何か少しでも変えることができると思います。いじめによって自ら命をたてしまった人を、自分の行動で変えられたかもしれない。あの時自分が行動していたらと思っても、もう遅いです。だから、もし自分の回りがいじめられている人がいたら、声をかけてあげてほしいです。

LINEから起こるいじめもあります。文字だけでやり取りをするから、相手がどういう気持ちで送ってきたのかが分からずにトラブルになったり、気に入らない事を送ってきたという理由で、いじめが起こる事もあります。私は、人が勘違いするような内容

を送ってはいけないとおもいます。

いじめをしている人は、人を辛い気持ちにさせるために行動しているか、分かりませんが絶対にしてはいけないと強く思います。私はこれからいじめに合っている人と会う、あるいは、自分がいじめに合うかもしれない。だから、もし回りに、いじめを受けている人がいたとしたら、助けてあげようと思います。いじめに合い、自分でなんとかできる人もいるかもしれないけれど、そんな人は少ないと思います。だから、回りの人が声をかけて助けてあげて欲しいと強く思います。いじめを少しでも減らす方法は、まず自分がいじめをしないことだと思います。人生は、一度きりです。相手を辛い思いさせて生きるより、相手を楽しい思いにして自分も楽しむ、そんな毎日が送りたい。私はそう思います。

戦争について

城南中学校三年



どうして戦争が起きるのだろうか。僕は戦争する国がどうしてしようと思うのかわからない。言葉で解決できる事でも国同士がケンカして小さな問題が戦争に発展していくんだと思う。各国の大統領はSPたちに守られたりして命が助かることもあると思うけど一般市民は隠れるところや逃げるところがないから戦うしかないから次々と命がなくなりどれだけ命があってもたりないと思う。僕は政治の事はあまり良く分からないけど大統領というのは国をよくしていき平和な国にしていくことが仕事だと思う。戦争をして得なことはいないし同じ人間が死んでいくということはそ

の国が成り立つこともないと思います。今日本の政治は良くないと思います。日本の政治家同士でもすぐ言い合いになり結局は問題を解決できていないと思います。一人一人の意見をしっかりと聞き、その意見の返答を一人一人していけばいいのに二人、三人がいつきに話すから小さな問題も解決できないんだと思う。日本が警戒している北朝鮮は日本と戦争をするのでしょうか。日本の総理はそれに対してどういうことを考えているのでしょうか。日本は戦争をしない国なのに北朝鮮にせめられ戦争をする国になると一般市民を兵とし、次々と命がなくなっていくと思う。

日本は、昔戦争をしたとき神風特攻隊と言う部隊がありました。一人の兵が小型の飛行機に乗り相手の船に体当たりするという自爆飛行機です。一つの命を無駄にし助かる命も助からなくなります。倒れている兵も治りようしたら助かるのにそのままに目的は果たしているのに戦いをしている国の本当の目的が何か全くわかりません。殺さなくていいときでもむざむざに殺し同じ人間なのに自分の国だけを考え世界にはまずしい国や豊かな国毎日のように戦争が起っている国がある中で他の国の事を考えずに次々と爆弾を落とし関係のない国をもつぶし多くの人々が死んでいきそれがあたり前のように起っていることが不思議です。

日本は今から七〇年ほど前に中国、アメリカ、イギリス、オランダ、ソビエトなど世界の多くの国々を相手に大戦争をやっていたそうです。それらの国々の人々を何百万人も殺し結局は戦争にも負けました。第一次世界大戦では、八百五十四万三千五百十五人が死に、二千二百一十一万人が負傷したそうです。第二次世界大戦には、五十か国が参加し、一千六百万人が戦死したそうです。

本に戦争が起る原因が書いていました。

国と国との争いの原因は、強くて勢力のある民族や人種が、もうかる仕事や有利な立場を自分たちのだけのものにして、いやな

事を弱い民族や人種におしつけようとしているからだと本に書いていました。

僕はこれを読んで思ったことは自分の国だけを考えるのではなく、まわりの国のことも考え一つの問題を勝手に解決するのではなく、みんなで解決して助け合いながら生きていける国にしたいです。

戦争はどこの国の人たちもおこつてほしくないと思っています。思います。それを一番わからなければいけないのは大統領や総理大臣です。大統領や総理大臣一人の意見が一つの国の未来を大きく変えることでしよう。

たくさんの人の一人に

光洋中学校三年



今、私がこのように普通に、平穩にくらしている時間に、何人の人が命を落としているのでしょうか。何人の人が食糧不足で苦しんでいるのでしょうか。そう考えるようになったきっかけは、何気なく見ていたテレビのコマーシャルでした。

そのコマーシャルには、栄養不足で命が危ない、幼い子供が映し出されていました。そして、服も着ずに、泣いていたのです。その時に私は思いました。「私自身がこのような子たちを助けることはできなくてもこの子たちを助ける手助けはできるのではないだろうか。」と。そして、そのコマーシャルでは、「あなたの少しの募金が、この子たちの助けになるのです。」と言っていました。

そしてある日、コンビニで私は募金箱を見つけました。その中には、たくさんの小銭が入っていました。一円玉、十円玉、百円玉、五百円玉。たくさん入っていました。その中に一枚だけ千円札も入っていました。そしてその募金箱には、約五ヶ月で全国から約三千六百万円ほどのお金が集まった、と書かれていました。これを見て、私は、これだけのお金が集まるほど日本人々は募金に貢献しているんだ、と思い、とても感動しました。あの日に見たコマーシャルでは、約三千円で予防注射用のワクチンを七回分打てる、と言っていました。三千六百万円もあれば、八万四千回ものワクチンを子供たちに打つことができます。そう考えると、とてもすごいんだな、と感じました。私はその募金箱にそつと、五十円玉を入れておきました。三千六百万円に比べると少ない金額ですが、その三千六百万円の一部になりたい、と強く思いつながら入れました。

その日から私は、募金箱を見つけたたびに、たとえ一円でもいいので募金箱に手を差し伸べ、お金を入れていくことをできるだけするように心がけています。一回に入れる金額は少ないけれど、たくさん回数を重ねて、三千六百万円の中に募金した人の中の一人名になって、世界中の苦しんでいる人を助ける力になればな、と思っています。

そして、その募金活動は私のとても身近な学校でも行われていました。「命の駅伝」という、がんの研究資金をみんなから募集しながら九日間走りきる、といった和歌山県を少し通る、三重県のイベントです。光洋中学校では生徒会を中心として校内で募金活動を行っていました。コマーシャルで見た募金目的とは少しちがうけれど、それでもがんで苦しむ人の力になればいい、この命の駅伝に募金するたくさんの人々の中の一人になりたい、と思いつ募金をしました。コマーシャルと少し内容は違つても人を助けた

い、ということは同じです。こんなに身近にこんなにすばらしい事が行われていたことに驚き、感心しました。

日本の中にも、世界の中にも苦しんでいる人はたくさんいます。その人たちの「力」に少しでもなりたい、と私は思います。募金に協力するたくさんの方の中の一人になりたいと思っています。そして、貧富の差がなくなり、がんで苦しむ人がいなくなつて、この地球という星で生まれた人全員が幸せで、平等だと思える世界になつてほしいと願っています。

仲間を頼って

城南中学校三年



何かに迷ったり悩んだりしたとき、あなたはしっかりと周りを見て助けを求められているでしょうか。それまでの自分を見つめ直してみてください。そこには、きっとたくさん仲間達がいます。

僕は小さい頃によくからかわれていました。いつも僕は言いたいことが言えず、からかわれていても、「やめて」も「助けて」も何も言えませんでした。そんな時にマンガが好きだった僕は一つのセリフで誰かを頼ってみようと思いました。その言葉が「一人じゃどうにもならなくなったら誰かに頼れ、でないと実は誰もお前に頼れないんだ」という、言葉でした。僕はこの言葉を聞いてやっと一人でかかえこまずに頼ってみようと思いました。そのことがきっかけで僕のからかいはなくなり、今ではたくさん仲間たちにかこまれてすごく楽しい日々がすごせています。

そしてもう一つ僕を後押ししてくれたマンガのセリフがありました。それは中学校に上がり野球部に入った時に小学校から野球をやつていて周りより少しだけであまりうまくなくて副キャプテンをまかされたときに僕はすごく不安になりました。僕で本当にいいのかわかりませんでした。でも、ある言葉で頑張ろうと決めました。その言葉は、「仲間にするならかるたの『天才』より畳の上で努力し続けられるやつがいい」という言葉でした。僕はそれから下手でもいいから努力しようと思いました。そして、天才はもちろんだけど努力している人を支えてしっかりと向かい合つて一緒に、努力していきたいと、とても思いました。

僕はこれから頑張ろうと思つていますが、それはぼくが一番大好きなマンガのセリフを聞いて思つたことです。そのセリフが「情が移ったからさ、友人の為に動いて何が悪い」というセリフでした。僕はこのセリフを聞いてすごく良い言葉だなど思いました。このマンガの主人公はたくさん友人がいて、とても友人達を大切に心から大切にしています。そして友人に何かあったときに友人をすぐに助けに付けるこの主人公が良いなど、思いました。なので僕もこの主人公のように困ってる友人がいたら迷わずにすぐ助けに行きたいと思つています。そして友人じゃなくても助けを必要としている人に手をさしのべられるそんな優しい人間になりたいと思つています。そしてずっと一人だった過去の自分や泣きたいくらい辛い人達のことを少しでも減らしていきたいと思つています。

これまで言つてきたように僕はいつもマンガの中にあるセリフに心を打たれて、僕もこうしたい、助けたいなど思つて来ましたが世の中には、たくさんの方達が辛くてどうしようもなく誰かに助けを求めている人達が、数えきれないほどいると思います。周りにそういう人たちがいたらできるだけ助けてあげてほしいです。

となりにより添うだけでも良いのです。ただその人達を一人にさせないでください。その人達が一人じゃないことを知ったらきっと幸せな人生になっていきます。そして誰かを救った人の周りには救ってもらった、たくさんの仲間達ができているはずですよ。

これまで一人で辛い思いをしている人達は何か心に残るマンガを探してほしいです。そのなかにきつと自分の心を救ってくれるセリフがあるはずですよ。自分の心にひびくセリフを探してみてください。

人間の幸せとは

緑丘中学校三年



私たち人間が五体満足で産まれてくる割合は百%中、九十六%と、ほぼ百%に近いです。ですが、逆に考えると、生まれてくる赤ちゃんの四%は、障害をもっている、ということになります。私は、この四%の確率で産まれてきた障がい者の人たちについて考えました。

障害は大きく、「身体障害」「知的障害」「精神障害」の三つに分けられます。これらには、目に見えて分かるものと、そうでないものがあります。ですが、どの障害についても言えることは、社会で生きていく上で、周りの人々からの「偏見」がある、ということです。

皆さんは、昨年七月二十六日に起こった、戦後最悪の大量殺人事件と言われた「相模原障害者施設殺傷事件」を覚えていますか。私はこの事件をニュースで知ったとき、自分や身内のことではあ

りませんが、とても悲しくなりました。何よりも、犯人の身勝手な偏見のせいで、何の罪もない障がい者の人たちが亡くなったことに強い怒りを感じました。犯人は、事件後に、

「障害者なんていなくなればいい」

「障害者の安楽死を国が認めてくれないので、自分がやるしかないと思った」

と供述していました。まるで自分は正義のヒーローだというような主張に感じませんか。この事件は、本当に卑劣で非人道的だと思います。障がい者だから。そんな理由で失った命があることを私たちは決して忘れてはいけません。

一方で、従業員の七割が知的障がい者というチョーク工場があることを私は知りました。そして、その工場で働く人に密着して書かれた『虹色のチョーク』は、沢山の人々に読まれています。

読んでみると、「働く幸せ」「他の人の役に立つ幸せ」など、沢山の幸せを知り、感じ、学ぶことができました。日本理化学工業の会長である大山泰弘さんは、

「人間の究極の幸せは、人に愛されること、人に褒められること、人の役に立つこと、そして、人から必要とされることの四つである」

といいます。私はこの言葉を聞いて、自分の中の幸せの考え方が、百八十度変わったような気がしました。障害があっても、働くことによって、幸せを得ることができるのです。障がい者の方が働ける環境を創っていくということは、障がい者の方が生きやすい世の中になるだけでなく、他の人間と同じ、「幸せ」を得ることにつながっていく。そのことに私はとても感動しました。

私は、障害のない体で産まれてきました。それでも出来ること、出来ないこと、得意、不得意があります。みんながそうであり、おかしいことではありません。障がい者の方は少しハンディキャッ

プがあるだけで、他は周りの人と同じです。その間に、差別や偏見があるのはおかしいです。しかし、残念なことに、まだその状況は続いています。

私たちの考え方を変えなければ、世の中が変わっていくことはありません。一人ひとりが意識を改め、障がい者と健常者が等しい関係になれる社会を目指すことこそ、人間が幸せになれる近道ではないでしょうか。